

詳しい情報は、ウェブ版(データ編)をご覧ください。
<http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/csr/>
 (03 地域社会の活力をつなぐ)



西日本高速道路(株)
 関西支社 京都工事事務所

栗山 達哉

着実な道路ネットワークの整備

地元の皆さまのご理解とご協力のもと、工事を着実に進めていく。

工事への不安を解消していただくため 地元の皆さまとの対話を重ねる

高速道路を造る上で最も大事なのは、沿線の地元の皆さまとの対話である。京都第二外環状道路(通称:にそと)のなかで栗山が担当するのは、京都府乙訓郡大山崎町や長岡京市といった、周りが緑豊かな自然に囲まれた閑静な住宅街が広がっている地域だ。そのため、沿線の皆さまにとっては、騒音や砂埃をはじめ、普段使っている生活道路の規制など、日常生活を送る上でさまざまな面での不安を伴う。そうした不安を少しでも解消するため、地元の皆さまとの話し合いは欠かせない。

栗山が担当する長岡京工事区は、自治会が約10地区ほどに分かれており、地区ごとに定期的な話し合いの場として年1回の懇談会の場を設けている。また、工事にあたっての約束事を決めたり、事業の

進捗状況を説明するほか、高架下をどのように利用するのかなどの意見をもらう場も適宜設けている。地元の皆さまの多くは、平日は仕事へ出かけている方も多いため、土曜日や日曜日に開催することも少なくないという。

「昔からお住まいの方は地域のつながりもあり自治会の役員を通して意見を伝えることもできますが、新しく来られた方はそうしたことは難しい。ですから、懇談会ではできるだけ多くの方が参加いただきやすいように調整をしています」。

特に今回の工事は、他の工事に比べても大規模な構造物が多いため、必要な車両が増えたり、作業時間が通常よりかかってしまったりすることもあるという。

「約束している作業時間を超えてしまう場合には、前もっての案内はもちろん、必要に応じて直接ご自宅にお伺い十分にご説明を行うようにしています」と栗山は話す。

少しでも分かりやすくお伝えするため コミュニケーションにも工夫を

また、工事に関する内容というのはどうしても言葉の説明では伝えきれない部分も多い。例えば、『騒音が何デシベルになります』といったもあまりピンとこない。そこで、騒音を実際に体感できる装置などを設けた「にそと工事館」という施設も紹介している。本施設には、その他にも、完成予想の模型や走行シミュレーションシステムなどが置かれ、目や耳で感じてもらえる工夫がなされている。年末年始を除いて、毎日10時~18時まで誰でも利用でき、今まで延べ3,000人以上に利用されているという。

それ以外にも、現場の写真をできるだけ多く掲載して進捗状況や工事に関連する情報を伝える広報誌「にそと」(季刊)を独自に発行したり、各工事ゲートにお知らせ掲示板を設置している。

「説明となると、どうしても専門的な話になってしまいがちなため、できるだけ住民の方の目線に立った分かりやすい情報提供を心がけています。あとは、とにかくタイムリーにきめ細かく現在の工事内容などのお伝えすることで安心いただけるようにしています。作業がもう少し進めば、現場見学会なども開きたいですね」と意気込みを語る。

関係機関への調整、配慮も欠かさない

さらに、この長岡京工事区は、阪急京都線の路線をまたいで造られ、さらにその高架下に阪急新駅の建設予定があり、非常に特殊な工事区である。そのため、

関係する機関も多く、作業をするにあたっての制約も多いという。

「列車の運行に支障があっては絶対にいけませんので、列車監視員という専用の人員を配置することはもちろん、軌道に影響がないかを測定器を付けて監視、列車が通るときにはクレーンを動かさないなど、とにかく万全の注意態勢を払っています」と栗山は力を込める。

阪急電鉄をはじめ、市や府・国など関係者が非常に多いため、調整や配慮も他の工事以上に必要となり、協議会を立ち上げるなど、綿密なコミュニケーションをとるようにしているという。

「今回はNEXCO西日本の事業だけではなく、その後に他機関が主体となる行方事業も関係しているため、お互いに

工程などは常に確認し連携できる場所はしながら進めないといけません」。常に全体を見ながら事業を進め、あとはとにかく現場に出てお互いの意見を交わすことを大事にしているという。

地元の皆さまはもちろん、関係するすべての人の理解と協力があって初めて高速道路の建設事業というのは成り立っているという想いを胸に、2012年度の開通に向けて全力で取り組んでいる。



地元工事説明会

NEXCO西日本グループの取り組み

NEXCO西日本グループでは、高速道路ネットワークの整備および既存ネットワークの機能向上を重要な使命の一つとして取り組みを進めています。民営化後の新規開通は、2009年度までに8区間8.6kmに及びます。また、早期の整備・開通による料金割引などの実施により地域への還元を図っており、2009年11月に開通した山陰道は、当初予定より4カ月前倒しで開通できたため、早期開通割引として50%の料金割引を実施しました。

一方、ネットワークの整備等により、交通渋滞の減少や地域社会の活力増進に寄与しています。2009年度に開通した第二京阪道路においては、国道1号等の渋滞緩和により、安全性・定時性の向上や物流の効率化が図られています。

▼ 高速道路ネットワークの開通実績(2009年度)

道路名	区間	延長(km)	開通実績	短縮期間(カ月)
山陰道	斐川IC~出雲IC	13	2009.11.28	4
第二京阪道路	枚方東IC~門真JCT	17	2010.3.20	0
佐世保道路	佐世保IC~佐世保みなとIC	3	2010.3.20	0

▼ 生活道路の安全性向上(第二京阪道路周辺)



第二京阪道路の開通前は、国道1号や並行する幹線道路の渋滞を避けるため、抜け道として生活道路に通過交通が流入していた。



開通後、国道1号等の渋滞緩和が進み、抜け道への流入交通量も約4~7割減少。生活道路の安全性が向上したとの声が地域の皆様から寄せられています。